

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
 国立大学法人総合研究大学院大学

1 全体評価

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関法人等に設置されている各分野で我が国を代表する研究所その他の機関が有する優れた研究環境を活用した博士課程教育を実施し、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性を兼備して、新しい課題を発掘して解決できる独創的な研究者を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、異分野融合的な新しい学術分野の創出を試みるとともに、各専攻が提供する専門教育を基本としつつ、総合教養教育及び専門基礎教育の整備やカスタムメイド教育プログラムの提供等により、新しい科学と文化を創造し、時代と社会の要請に応える研究を担うことのできる人材を育成すること等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育				○		
研究		○				
社会連携			○			
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

物理科学研究科・高エネルギー加速器科学研究科・複合科学研究科・生命科学研究科の理系4研究科において、総合研究大学院大学の学生を著者に含む学術論文として発表されたWeb of Science収録論文499件のうち、他機関との共同研究論文数は399件となっており、共同研究論文比率は80%に達している。また、基盤機関がもつ国際共同研究のネットワークを活用した学生研究派遣プログラムや専攻独自の海外派遣制度によって、毎年多くの学生を海外での学会参加、調査研究、共同研究に派遣することで、国際的な通用性を備えた研究者人材の育成を図っている。

一方で、「教育に関する目標」の項目2事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

大学共同利用機関4法人及び総合研究大学院大学で構成する「連合体」として「一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス」を設立し、大学共同利用機関の特色を活かした大学院教育の充実、共通部分の統一による業務運営の効率化、異分野連携の更なる強

84 総合研究大学院大学

化、人材育成機能の拡充などの検討を進めている。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標				○		
①教育内容及び教育の成果				○		
②教育の実施体制				○		
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標		○				
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する 目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」、2項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を十分に達成しているとはいえない

(理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「専攻を跨いだ学術交流の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 基盤機関の研究環境を活用した人材育成

大学共同利用機関等の基盤機関の研究環境を活用したOn-the-Job Trainingとして学位論文研究の指導を行い、基盤機関の研究活動や共同研究に学生を参加させることにより、高い専門性を備えた研究者人材の育成を行っている。(中期計画1-1-1-1)

○ SOKENDAI研究派遣プログラムの実施

基盤機関がもつ国際共同研究のネットワークを活用した学生研究派遣プログラム(SOKENDAI研究派遣プログラム)や専攻独自の海外派遣支援制度によって、毎年多くの学生を海外での学会参加、調査研究、共同研究に派遣することで、国際的な通用性を備えた研究者人材の育成を図っている。(中期計画1-1-1-4、1-1-1-11)

(改善を要する点)

○ 専攻を跨いだ学術交流の状況

「専攻を跨いで学術交流を行うプログラム」は、オンラインの活用や新たな連携セミナーが実施されているものの、学生・教員の参加実績が定常的に不十分な研究科があり、全学として中期計画に掲げた「当該研究科の専門基礎教育として位置づける」には至っていない。(中期計画1-1-1-7)

1-2教育の実施体制等に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標をおおむね達成している

(理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1(小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 教育開発センターの設置

大学院教育課程における全学教育の実施・支援及び教学IRを担う組織として、平成29年度に本部に直結した全学共同教育施設として「教育開発センター」を設置し、教育担当理事をセンター長に充てるとともに、専任教員5名、英語教育担当の特任講師1名を配置している。教育開発センターでは、「フレッシュマンコース」の実施、SOKENDAI研究派遣プログラムの実施支援、国際共同学位プログラムの実施支援、学生の学習ニーズに即した支援等の全学教育事業の実施・支援と、教育課程の内部質保証活動の支援、学生の研究活動に関する調査・分析などを行っている。(中期計画1-2-1-1)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、Wi-Fiルーターや通信料金の支給、Web会議システム(Webex)のライセンス無償配布などの取組を実施している。

1-2-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-2-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-2-4 (小項目)

【判定】 中期目標を十分に達成しているとはいえない

(理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「授業評価やFDの組織的実施の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。

<特記すべき点>

(改善を要する点)

○ 授業評価やFDの組織的実施の状況

基盤機関教員を総合研究大学院大学の担当教員に任命しているため、授業評価やFD等において組織的な取組が十分に進んでいるとは認められない。学生の意見把握等に一定の取組が見られるものの、抜本的な改善に至っているとは認められない。(中期計画1-2-4-2、1-2-4-3)

84 総合研究大学院大学

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 学生への経済的支援

全専攻においてリサーチ・アシスタント(RA)あるいはRA相当の処遇で学生を雇用する制度を導入し、研究遂行能力の育成や研究体制の充実を図るとともに、手当での支給によって経済的な支援を行っている。また、各専攻では、それぞれの基盤機関、近隣地域の金融機関あるいは関連団体等からの資金協力によって独自の奨学金制度を設けている。（中期計画1-3-1-2、1-3-1-3）

1-4入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 大学共同利用機関を基盤とした研究

大学共同利用機関等を基盤とする研究科・専攻では、共同利用・共同研究の中核拠点としてのミッションに基づいて研究を行っている。平成28年度から令和元年度に研究活動の成果として公表されたWeb of Science収録論文の分析からは、理系4研究科の専攻を置く基盤機関が大学共同利用機関として発表した総論文の20%程度に「総研大」が研究実施機関として併記されている。(中期計画2-1-1-1)

○ 先導科学共働プログラムによる新分野開拓

平成30年度に開始した「先導科学共働プログラム」は、総合研究大学院大学が世界トップレベル研究者間の異分野連繋共同研究により新しい分野を開拓するために、機能強化経費(機能強化促進分等)によって推進する研究活動となっている。(中期計画2-1-1-2)

84 総合研究大学院大学

2-1-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「基盤機関での共同研究への学生参加」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 基盤機関での共同研究への学生参加

物理科学研究科・高エネルギー加速器科学研究科・複合科学研究科・生命科学研究科の理系4研究科において、総合研究大学院大学の学生を著者に含む学術論文として発表されたWeb of Science収録論文数は499件であり、そのうち他機関との共同研究論文数は399件で、共同研究論文比率は80%に達している。(中期計画2-1-2-1)

2-2 研究実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 留学生受入の推進

体験入学の受入、海外での大学院説明会の実施、国費外国人留学生優先配置プログラムの実施等により、留学生比率は第3期中期目標期間中(令和元年度まで)の平均が29%となっている。(中期計画4-1-1-5)

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
【評定】 中期目標を達成している
(理由) 中期計画の記載15事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

＜特記すべき点＞
(優れた点)
○ 他法人との連携に関する取組
大学共同利用機関4法人及び総合研究大学院大学で構成する「連合体」として「一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス」を設立し、大学共同利用機関の特色を活かした大学院教育の充実、共通部分の統一による業務運営の効率化、異分野連携の更なる強化、人材育成機能の拡充などの検討を令和4年度よりスムーズに開始することができる体制を整えている。また、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」、科学技術振興機構の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」を活用し、3年間に亘って生活費相当額及び研究費を支給するとともに、優れた学位論文研究を行って課程を修了した採用者に対して、大学共同利用機関における2年間の研究員ポスト(有給)に接続できる「SOKENDAI 特別研究員事業」を令和3年度より開始し、SOKENDAI 特別研究員として計22名を採用している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 「総研大基金」の設立等による外部資金比率（寄附金）の上昇

新たに寄附金事業「総研大基金」を設立するとともに、寄附者に対する利便性の向上として、クレジットカード継続課金やコンビニ決済の導入に向けた準備を進めた結果、平成28年度から令和3年度の外部資金比率（寄附金）は第2期中期目標期間の平均0.2%（平均受入額約456万円）から0.4%（平均受入額約779万円）と0.2ポイント増加している。

○ 学生の民間財団等からの研究費獲得等による外部資金比率（共同研究）の上昇

科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業（ACT-I）」の獲得や、学生が民間財団等から研究費を獲得するケースが増加していること等により、平成28年度から令和3年度の外部資金比率（共同研究）は平成28年度の0.0%（平均受入額約22万円）から0.1%（平均受入額約131万円）と0.1ポイント増加している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載8事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。